

2020年9月7日

マーケットレポート 2020年8月号

日本

前月の振り返り

◆トピックス

経済産業省が発表した7月の鉱工業生産指数は、前月比8.0%上昇しました。2か月連続の上昇となり、国内の生産が新型コロナウイルスによる落ち込みから回復しつつあることを示す結果となりました。

◆株式市場

株式市場は上昇しました。経済正常化期待の高まりや海外市場の株高、円安ドル高の進行を受け、月の半ばにかけて株価は上昇し、日経平均株価は一時約半年ぶりの高値水準となりました。その後利益確定売りや、米中对立懸念により下落しました。下旬は、新型コロナウイルスのワクチンや治療薬開発への期待感や、米連邦準備理事会（FRB）の低金利政策の長期化が意識されたことで上昇しました。28日の安倍首相の辞任報道を受け株価は下落しましたが、現状の政策方針が維持される見通しから、翌営業日には下落分をほぼ取り戻しました。月を通して株式市場は上昇しました。

◆債券市場

10年国債の価格は下落（金利は上昇）しました。月の半ばにかけて、新型コロナウイルスのワクチン開発の報道等を受けて投資家のリスク選好が高まり、相対的に安全資産とされる国債の価格は下落（金利は上昇）しました。その後は、株安を受け国債が買われましたが、月末にかけて、FRBの低金利政策の長期化が意識され、インフレ期待から10年国債利回りは上昇しました。月を通して価格は下落（金利は上昇）しました。

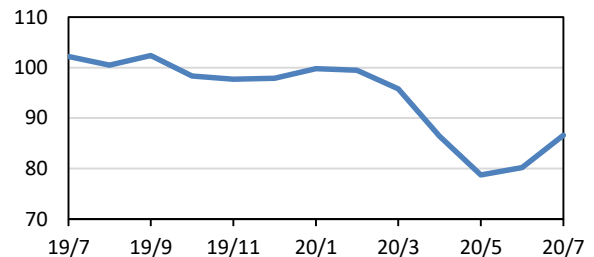
◆今後の見通し

足元では新型コロナウイルスの新規感染者数が8月上旬以降減少傾向と、落ち着きを見せつつあります。また、鉱工業生産指数は経済が徐々に回復に向かう状況を示す結果となりました。今後も、新型コロナウイルスの感染状況の推移と、経済回復のペースが焦点とみられますが、更なる感染拡大による経済の下振れリスクは低下しつつあると思われれます。また、安倍首相の辞任表明を受け、9月中旬に次期首相が選出される予定です。総裁選の動向と新首相の政策運営には大きな注目が集まりますが、現状の政策方針が維持される場合には市場への影響は軽微であると思われれます。株式市場は、引き続き感染拡大が落ち着きを見せれば経済回復を意識した展開が予想されますが、利益確定売りや政治動向には注意が必要と思われれます。債券市場では、日銀の金融政策や米長期金利の動向を受け金利が小幅に変動することが想定されます。日銀やFRBの動向は注視する必要がありますが、金利の絶対水準は低位での推移を見込みます。

		8月末	7月末	月間騰落率
株式	日経平均株価(単位:円)	23,139.76	21,710.00	6.59%
	TOPIX	1,618.18	1,496.06	8.16%
債券	10年国債利回り	0.051	0.020	0.031

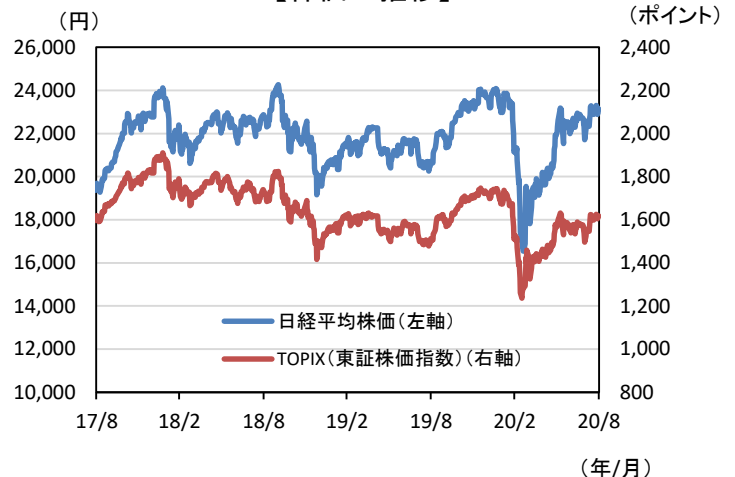
※債券の騰落率は利回りの変化幅です。  
(出所) BloombergのデータをもとにJP投信作成

【鉱工業生産指数(季節調整済)】



(出所) 経済産業省公表の資料をもとにJP投信作成

【株価の推移】



(年/月)

【10年国債の利回りの推移】



(年/月)

米国

前月の振り返り

◆トピックス

8月27～28日、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長はジャクソンホール会議において金融政策の目標としている2%の物価上昇率について、これまでより柔軟に運用し、一定期間の平均で2%を上回ることを目指す新たな金融政策を発表しました。長期的な低金利政策が見込まれ、株式市場に資金流入が続くとの見方が強まり、米主要株式市場は上昇しました。

◆株式市場

米国株式市場は上昇しました。月の上半は、ISM非製造業景況感指数の改善や新型コロナワクチンの開発への期待が広がったこと、決算が好調なアップルなど主力ハイテク株が買われたことなどを背景に上昇しました。月末にかけては、FRBの新たな金融政策の発表や新型コロナワクチン開発を巡る好材料などを背景に上昇しました。月を通して米国株式市場は上昇しました。

◆債券市場

米国10年国債の価格は下落(金利は上昇)で終わりました。月の半ばにロシア政府が新型コロナワクチンを承認したとの報道を受け世界経済の正常化が進むとの期待などから国債が売られました。月の後半は欧州経済指標の悪化で世界景気の先行き不透明感が広がったことで国債が買われる場面もありましたが、月末にFRBが金融政策の新たな指針を発表すると、物価上昇や景気回復を後押しするとの見方が強まり国債が売られるなどし、一進一退の展開となりました。月を通して価格は下落(金利は上昇)で終わりました。

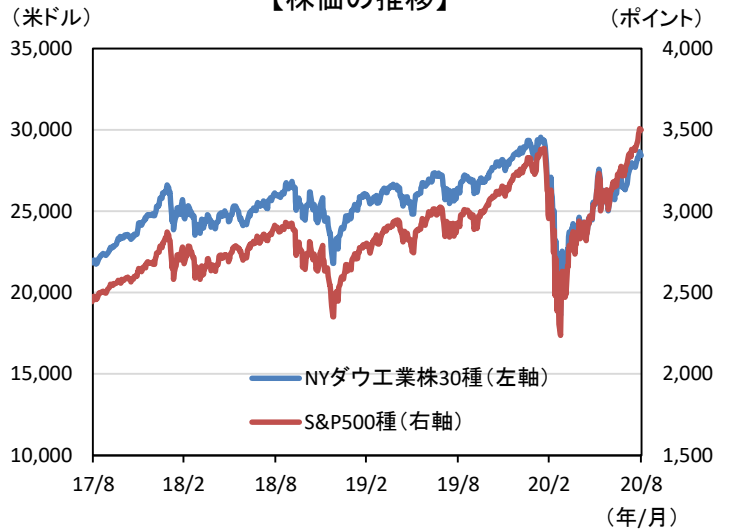
◆為替

米ドル/円は、円安・ドル高の水準で終わりました。月の半ばにロシア政府が新型コロナワクチンを承認したとの報道などを受け世界経済の正常化が進むとの期待から米長期金利が上昇し、日米金利差の拡大を受けた円売り・ドル買いが進みました。中旬には米中関係の悪化や経済対策を取り巻く不透明感を背景に主要通貨に対してドルが売られ、対円でもドル売りが優勢となりました。月末には安倍首相の辞任表明を受け大胆な金融緩和策が弱まるとの懸念などから、円を買う動きが強まるなどし、前日比約1円20銭の円高・ドル安が進みました。月を通して円安・ドル高の水準で終わりました。

◆今後の見通し

FRBや米政府の経済対策、各国の経済活動再開の動きなどを好感し、2020年4月以降の株式市場は急速に回復しました。ワクチン開発の進展など新型コロナウイルスの終息に向けた見通しが立てば投資家心理が改善され落ち着きを取り戻すことが期待されますが、新型コロナウイルスによる経済指標・企業業績への悪影響、更なる感染拡大の発生等の懸念材料が残っており、株式市場については、短期的には値幅の大きい展開が予想されます。また、債券市場については、FRBによる長期的な低金利政策が見込まれていることや量的緩和政策の維持が決定されていることなどから低位での推移を見込みます。

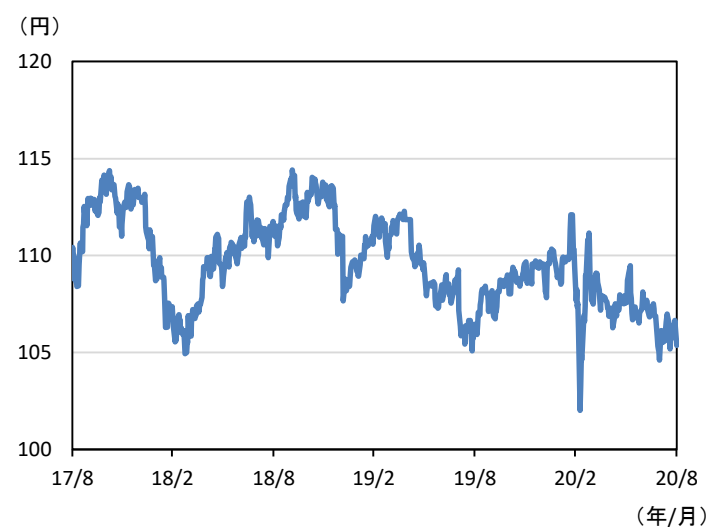
【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



【為替の推移(対円)】



		8月末	7月末	月間騰落率
株式	NYダウ(単位:米ドル)	28,430.05	26,428.32	7.57%
	S&P500	3,500.31	3,271.12	7.01%
債券	10年国債利回り	0.705	0.528	0.177
為替	米ドル/円	105.36	104.60	0.73%

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。

(出所) BloombergのデータをもとにJP投信作成

欧州

前月の振り返り

◆トピックス

8月6日、英イングランド銀行は現行の金融政策を据え置くと発表しました。同時に発表した金融政策報告書によると、マイナス金利による金融仲介機能への副作用のリスクに言及しており、マイナス金利採用の思惑は後退しました。8月20日、欧州中央銀行(ECB)は7月16日に行われた政策委員会の議事要旨を公表、景気見通しと必要な金融緩和の規模について不透明感を表明しました。9月に発表される最新の経済予測で改めて景気判断をすることで合意しています。8月25日、ドイツのメルケル政権は新型コロナウイルスの感染拡大で業績が低迷する企業への支援策の延長を決定しました。就業時間短縮で減少した給与の6割以上を補償する時短勤務制度の支給期間を現状の12ヵ月から最大24ヵ月に拡大しています。

◆株式市場

DAX指数(独)、FTSE 100(英)は上昇しました。上旬、ユーロ圏の製造業購買担当者景気指数(PMI)の改定値が速報値から上方修正されたことなど、堅調な経済指標から景気回復期待が高まり株式市場は上昇しました。下旬には、業績が低迷する企業に対するドイツ政府による支援策の延長が好感されDAX指数は上昇、FTSE 100は為替相場のポンド高が重荷となり上げ幅が縮小しました。

◆債券市場

ドイツ10年国債、英国10年国債は価格が下落(金利は上昇)しました。月前半、欧州株式市場が堅調に推移していること、新型コロナウイルスのワクチン実用化による経済正常化への期待などから国債が売られました。中旬以降、米中対立の激化による景気の先行き不透明感から国債が買い戻される場面もありましたが、下旬には米連邦準備理事会(FRB)の低金利政策の長期化が意識されて国債売りが進みました。

◆為替

ユーロ/円、ポンド/円はそれぞれ円安・ユーロ高、円安・ポンド高となりました。月前半、欧州株式市場が堅調に推移していることから上昇しました。月後半には8月のユーロ圏の総合購買担当者景気指数(PMI)速報値が市場予想を下回ったことから下落する場面があったものの、月末にかけて米国の低金利政策の長期化が意識されてドルが売られ、ユーロ、ポンドが買われました。

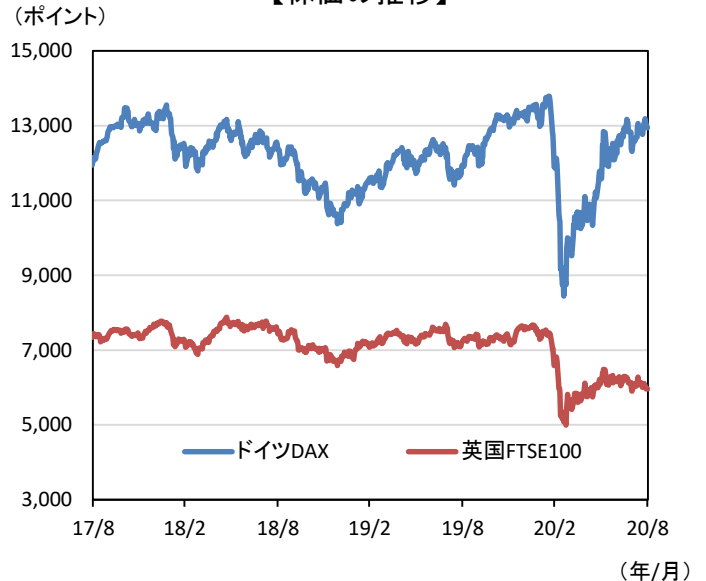
◆今後の見通し

足元、景気回復に対する期待感から欧州株式市場は堅調に推移しています。しかし、依然として新型コロナウイルス感染拡大に対する懸念がくすぶっており、欧州経済の先行きに影を落としています。株式市場は新型コロナウイルス感染拡大に対する懸念の高まりなどから、短期的には値動きが大きくなる展開も予想されます。しかし、ECBの金融緩和が継続していることや各国政府が打ち出している経済対策が景気を下支えすることなどから、堅調な推移を見込みます。債券市場はECBの金融緩和が継続していることや政策金利が据え置かれてることなどから、金利の絶対水準は低位での推移を見込みます。

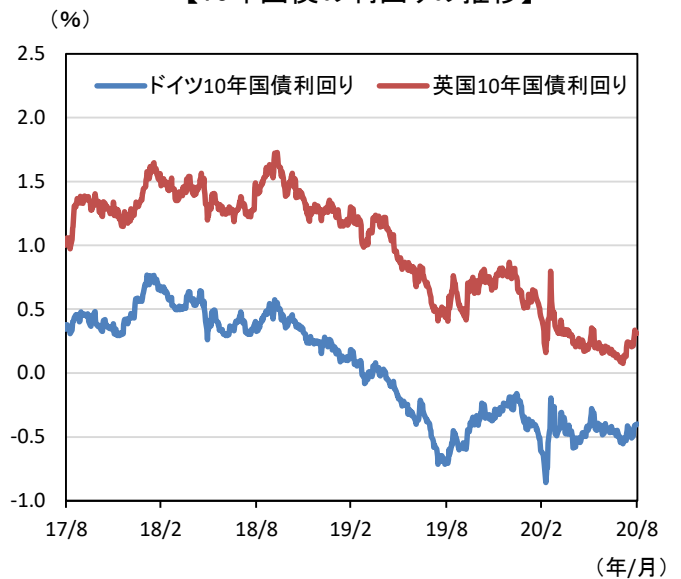
		8月末	7月末	月間騰落率
株式	ドイツ DAX	12,945.38	12,313.36	5.13%
	英国 FTSE100	5,963.57	5,897.76	1.12%
債券	ドイツ10年国債利回り	▲ 0.397	▲ 0.524	0.127
	英国10年国債利回り	0.311	0.104	0.207
為替	ユーロ/円	125.47	124.13	1.08%
	英ポンド/円	140.63	137.21	2.49%

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。  
(出所) BloombergのデータをもとにJP投信作成

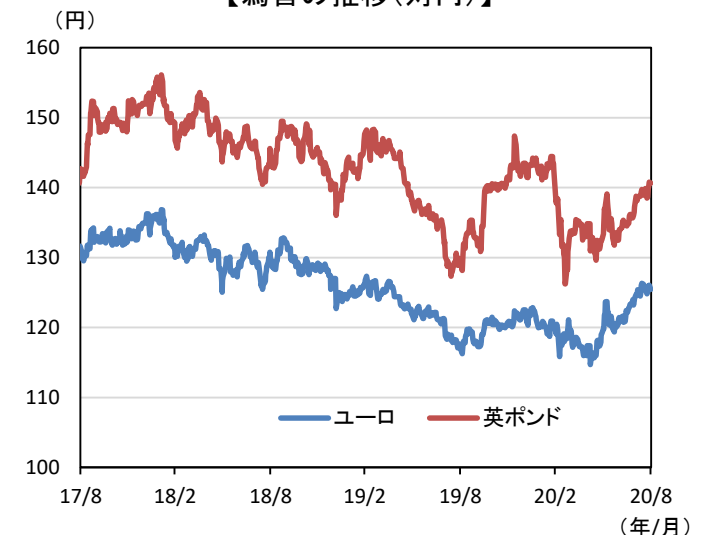
【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



【為替の推移(対円)】



## 【ご留意事項】

- 当資料は、JP投信が投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申し込みの際は、最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

## JP投信

商号: JP投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2879号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会

- 当資料は、JP投信が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではなく、証券取引の勧誘を目的としたものでもありません。